

## ■学校経営のポイント

### 虚心坦懐

喜名 朝博

4月、子どもたちとの新たな出会いの時期である。持ち上がりの学級であっても、新たな気持ちでスタートを切りたい。しかし、子どもたちに関わる様々な情報をもつ教師には、その情報が先入観や根拠のない勘となってマイナスに働くことがある。

大切なスタートのこの時期に心に止めておきたいのが「虚心坦懐」という言葉である。

#### 教師の心のもちよう

「虚心」は、先入観やわだかまりがなく、ありのままを素直に受け入れることのできる心の状態をいう。「坦懐」は、わだかまりがなく、清々しい心。平静な心境だ。いずれも教師の心のもちようだが、毎日のように刺激的な状況に身を置く教師にはなかなか難しい。

教師が心の安定を保つには、自らの考え方や認知の癖に気づくことが重要だ。

#### 認知バイアスに気づく

教師が自らの心をモニタリングするときに知っておきたいのが「認知バイアス」である。子どもたちに関わる教師の代表的な認知バイアスを挙げてみよう。

##### 【確証バイアス】

自分に都合のよい情報だけに無意識で注目してしまう心理的偏り。逆に反証する情報を無視や軽視してしまう。生徒指導上の課題があるといった先入観をもつと、その子のネガティブな行動ばかりに目が向き、良さを見逃してしまうことはないだろうか。

##### 【ステレオタイプバイアス】

これまでの経験等に基づいて先入観や固定観念によって判断してしまう傾向。たとえば、発達に課題のある子どもに対して、学力や性格について偏った見方をしてしまうことはないだろうか。差別の原因となる認知バイアスである。

##### 【足並みバイアス】

周囲の意見や行動に同調してしまう傾向。ある子どもの評価について、自らも他の教師と同じように評価してしまうことはないか。足並みをそろえるとは、思考停止の状態であるとも言える。

##### 【ハロー効果】

ある人物の一つのよい面に引きずられ、他の面も実際以上に高く評価してしまう傾向。学習成績が優秀な子どもについて、性格や行動も優れていると思い込んでしまうことはないだろうか。

##### 【感情ヒューリスティック】

感情に基づいて判断してしまう傾向。好きな子どもには甘く評価し、嫌いな子どもには厳しく評価することはないか。ヒューリスティックは問題解決の手がかりであって厳密には認知バイアスとは異なるが、バイアスを引き起こすものとなる。

#### 虚心坦懐のために「対話」を

自らの認知バイアスに気づき、虚心坦懐の気持ちを保つ鍵は「対話」である。まず、自分との対話によって自らの認知の歪みを確認したい。「思い込みや偏見はないか」「認知のバイアスがかかっているか」というリフレクションを習慣化したい。

さらに、同僚との対話は自分の認知の歪みに気づかせてくれる。その意味でも、職員室には多様な考え方が受け入れられる心理的安全性が保たれていなければならない。

#### 子どもたちとの対話を

そして、教師にとって最も大切なのは、子どもたちとの対話である。対話によって新たな発見があるだけでなく、こちらから教師の人間性を見せることにもなる。まっさらな気持ちで子どもたちとの関係をつくり、いいスタートを切っていこう。

(きな・ともひろ＝国士舘大学教授／全国連合小学校長会顧問)

## 法規から実務まで学べる 学校管理職の教科書

宮澤一則【著】 四六判／定価 2,310 円

■本の詳細の確認およびご注文は、右QRコードより小社ホームページをご利用ください。



